

ファザー・オブ・  
ザ・イヤー in みえ

大賞

“我が家の  
育児男子”部門

すぎの まさや  
四日市市 杉野 雅哉 さん

育児対象 子ども(0歳、4歳、7歳)



私の育児スイッチがONになったのは、妻が3人目の子を妊娠した時だったと思います。3人目出産後の1か月間、6歳の長女と3歳の長男2人の面倒をどうやってみるのかと考えた結果、私は「育休」を取得して自分で家事と育児をやってみたいと思いました。

いざ、出産の日が訪れると、次男は元気に生まれてきてくれました。しかし感動もつかの間、その日から私の戦いは始まりました。

朝食の準備をして子どもを起こし、お弁当が必要な日は時間に間に合うように早くから作ったり、幼稚園に長男長女を送り出し、洗濯掃除をして、買い出しにスーパーへ行き、夕ご飯の準備をしていたら、自分のお昼は食べれなかったなんていうことは何度もありました。これを毎日こなしていた妻に尊敬と感謝の気持ちを抱きました。

失敗もいっぱいしました。夕飯にかぼちゃ料理を作ろうと、硬いかぼちゃを力まかせに切ろうとしたら、テレビドラマのように見事に親指を切り、まな板が血まみれになったり、せっかく苦勞して作ったお弁当を冷蔵庫に入れたままにして、幼稚園まで届けるはめになったりと、失敗エピソードには事欠きません。

しかし感動したこともありました。イヤイヤ期の長男が中耳炎になり耳鼻科へ連れて行ったところ、大暴れして先生を蹴ってしまったり、治療器具を壊してしまったり。そんな長男が3回目の通院時に、自分から「お父さん。今日は僕、泣かないから！できるから！」と宣言して、つらい治療に耐えて最後まで泣きませんでした。私は長男のこの頑張っている姿を見て、ほろりと涙をこぼしてしまいました。この小さな

成長を、すぐそばで実感でき、とても幸せに感じるとともに勇気をもらいました。

1か月はあっという間でしたが、私にとってこの1か月間はものすごく有意義な時間であったと感じています。こんな素晴らしい機会を与えてくれた妻と子ども達、そして会社に心から感謝しています。

現在、育休期間が終わって早1年が過ぎようとしています。毎日帰宅すると3人の子どもを風呂に入れ、ご飯を一緒に食べ、仕上げ歯磨きをして、絵本の読み聞かせをして寝かしつける、というのが私の今の担当です。これをなるべくこなせるように、「夕方6時までには家に帰る！」を目標に仕事も効率的に進め、時間生産性を向上させるように今まで以上に取り組んでいます。「自分の人生の中で、育児を出来るのは今しかない！」という思いで、これからも全力で育児を楽しんでいきたいと思っています。

最後に、普段はあまり人を褒めない妻をして「母乳を出すこと以外は、完璧にやってくれた。感謝しとるよ」とまで言わしめることが出来ました。

### 👍 審査員共感！ポイント

- 最初からイクメンだったのではなく、3人目の妊娠でスイッチがONになったところ。失敗も沢山して、悪戦苦闘しながら色々なことを乗り越えて今がある感じが良かった。
- 育休が終わった今も、働き方を見直すなど、高い意識で育児に関わり続けているところがステキ！
- “母乳があって良かった”とお母さんに思わせてしまうくらい、お子さんがお父さんに懐いていそう。